

## 天真

## 草津東高等学校

草津東高校剣道部の部旗について考えてみます。

大変大らかな「天真」の文字は、京都にある臨済宗妙心寺僧堂（そうどう：修行僧の専門道場）師家（しけ：修行僧の師匠）雪丸令敏老大師の筆によるものです。

草津東高校剣道部の前顧問田島誠先生が親交のあった雪丸老大師に依頼して揮毫してもらわれたものと聞き及んでいます。

「天真」という言葉を辞書で引きますと、概ね「天然自然のまま、偽りや飾り気のないさま」「人為や造作を加えぬ本来のままのこと」というような解説がしてあります。

この言葉の意味を少し深く学びたいと思い、揮毫された雪丸老大師に手紙でお伺いをしたところ、御返事をいただきましたので概要を紹介します。

①「寶鏡三昧」131頁に出ている「②天真而妙 不屬迷悟」という語から引用した。天真は天然自然と云う意味にして、③純一無雜なる④境界を云う。自分と天地自然とが溶け込んで、⑤一体一如となり、恰（あたか）も生まれ立ての赤ちゃんが純真無垢であるように、日常生活・スポーツ等の上に於いて天真爛漫に、滞りなく、自由自在に働くことを云う。しかし、これを本当に体得するには、血の涙、玉の汗を流して大いに骨を折って努力精進することが必要である。怠けものが天真だと思ったらとんでもない間違いである。  
【雪丸令敏老大師の書簡より】

①寶鏡三昧（ほうきょうざんまい）修行僧が参考とするテキストの一つ。

②「天真にして妙なり 迷悟に屬せず」と読み下す。“天真というすばらしい境地にたどり着くと、迷いだとか悟りだとかを乗り越えてしまう”という意味。

③（じゅんいつむぞう）純粹で混じりけがないこと。

④（きょうがい）「境涯」とも書く。修行を重ねてたどり着いたところ。

⑤（いったいいちによ）一つとなること。

剣道を学ぼうとするものは「勝ちだ、負けだ」とか「損だ、得だ」とか、その他もろもろの雑念を取り払い、無邪気な赤ちゃんのように、純真無垢な気持ちで懸命に稽古に励むことが大切だということを、老大師はこの「天真」の二文字に託しておられるのだと感じました。